

池田機工のDX戦略について

代表者メッセージ

当社は精密板金加工業として、品質・納期・価格・顧客対応・情報セキュリティの5つの領域において、現場の知見とデジタル技術を融合したDX改革に取り組んでいます。属人性の排除、工程の最適化、情報の可視化を通じて、信頼性と柔軟性に優れたものづくり体制を確立するとともに、社内ルールの標準化やKPIによる進捗管理により、持続可能かつ付加価値の高い製品・サービスの提供を目指しています。

今後もDXを通じて経営基盤の強化と地域との共栄を図り、業界の未来に貢献してまいります。

経営ビジョンとビジネスモデルの策定

当社は「信頼されるものづくり」を中核に据え、精密板金加工業としての技術力と柔軟な対応力を活かしながら、デジタル技術を融合させた新たな製造モデルの構築を目指しています。属人性の排除、工程の可視化、情報セキュリティの強化を通じて、品質・納期・価格・顧客対応・情報管理の5領域で競争優位性を確立し、持続可能な企業価値の向上を図ります。

ビジネスモデルは以下の3軸で再構築しています：

- 属人化した業務の標準化と工程のデジタル記録による原価構造の見直し
- 顧客対応履歴の一元管理による提案型営業への転換
- 外部パートナーとの連携による設備投資を伴わない事業拡張

DX戦略の策定

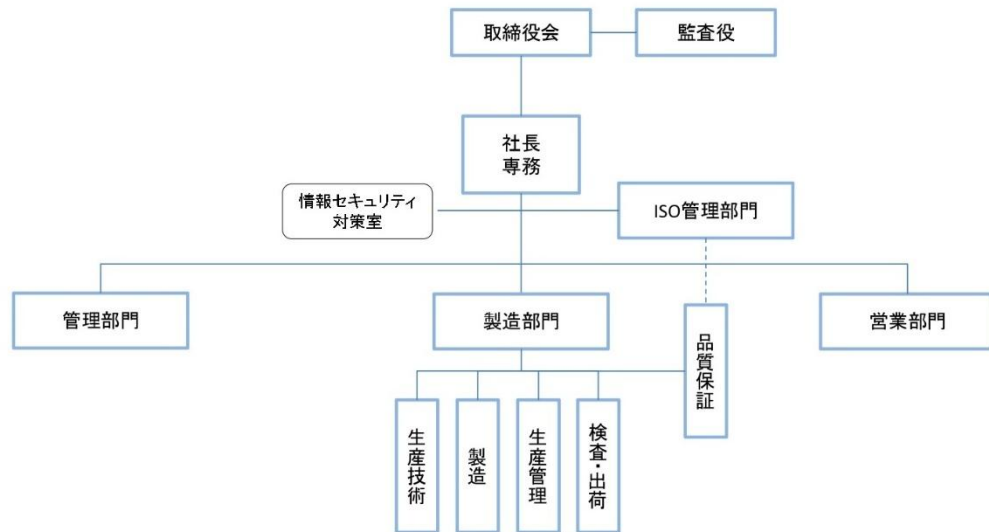
DX推進は「準備期 → 展開期 → 定着期」の3フェーズで構成し、各段階において明確な目標と施策を設定しています。

フェーズ	期間	主な施策	成果目標
準備期	～1年	業務棚卸、課題抽出、KPI設計、情報セキュリティ体制整備	DX基盤の構築、社内理解の醸成
展開期	1～2年	工程記録のデジタル化、見積業務の標準化、教育コンテンツの整備	業務効率化、品質・納期の安定化
定着期	2年～	KPI運用、改善提案制度、外部連携による事業拡張	DX文化の定着、持続的改善体制の確立

重点領域は以下の通りです：

- 品質管理の強化（工程内検出率の向上、不良傾向の予測）
- 納期対応力の向上（見積・進捗・納期情報の一元管理）
- 原価構造の見直し（工程別原価の可視化、歩留まり改善）
- 情報セキュリティ体制の整備（SECURITY ACTION取得、基本方針の策定）
- 人材育成と組織づくり（動画・ポスターによる啓発、部門横断チームの編成）

- 組織図



組織体制の構築

- 経営者の関与とメッセージ発信
- DX 推進責任者（CDXO 相当）の配置
- 部門横断型のプロジェクトチームの編成
- 外部支援（IT コンサル、診断士等）との連携

実行の仕組みと運用ルール

- 中期ロードマップ（準備期・展開期・定着期）の整備
- 社内ルール（見積・品質報告等）の標準化
- KPI での進捗管理
- ポスター・動画等による社内浸透

環境整備の基本方針

- 見積・進捗・納期情報の一元管理による精度向上
- 工程記録（時間・材料）に基づく原価分析
- 情報セキュリティ環境の整備（アクセス制限・バックアップ等）
- 記録様式の標準化・社内マニュアルの整備・啓発活動の実施
- KPI とモニタリング環境の構築（品質・納期・価格・セキュリティ）

成果指標の設計

DX の進捗と成果を定量的に評価するため、各領域に対して KPI を設定し、月次・四半期・年次でレビューを行います。

領域	指標項目	測定方法	目標値
品質管理	不良率、工程内検出率	製造記録	不良率 1.5%以下
納期対応	見積回答時間、納期遵守率	システムログ	納期遵守率 95%以上
原価・価格	原価変動率、歩留まり改善率	原価管理表	歩留まり 90%以上
セキュリティ	教育受講率、監査指摘件数	監査報告	指摘件数ゼロ継続
組織浸透	改善提案件数、動画視聴率	提案制度記録	月 5 件以上の提案

KPI は現場で測定可能かつ改善につながる指標を選定し、改善提案制度と連動させて PDCA サイクルを確立しています。

サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施

基本方針：SECURITY ACTION（二つ星）に基づいた全社的対策。

- 情報セキュリティ基本方針の制定（機密性・完全性・可用性の確保）
- 管理規程の整備（組織的・人的・技術的・物理的対策）
- 情報資産管理台帳の作成
- 社内教育・啓発活動の推進

責任体制・モニタリング：

- 情報セキュリティ推進責任者の設置
- 月次レビュー・年次監査による運用確認
- KPI による定量的評価（教育受講率・監査指摘件数・インシデント件数）